

静岡県立 科学技術高等学校

●創立 2008年
●静岡市葵区長沼500・1
●電話054・267・1100

創造力の育成、課題解決能力の育成、人間力の育成の3つを柱に、ほんものの力を身につけ、社会に貢献できる科学技術のスペシャリストを育成します。

都市基盤工学科では、社会基盤をつくりまもるシビルエンジニアを目指します。社会資本の整備・安全で安心な暮らし・環境の保全と創造、災害に強いまちづくり等の分野を学習します。卒業後の進路は、公務員や地元企業で、都市計画や社会基盤の整備に貢献できる技術者、大学等の都市工学分野・土木工学分野に進み、将来のスペシャリストを育成します。



東日本大震災ボランティア活動
(大槌漁港で牡蠣の水揚げ作業)

<http://www.sths.ed.jp/>

動は改善の方向に向かうと思います。

丸田 大学としての短期間のインターンシップの単位はあります。それも推進しますが、4年後に大学院をつくります。その際ゼネコンや設計事務所に協力をお願いして長期間のインターンシップを行い、大学院の2年間を実務の2年間に換算でき、一級建築士の試験を、大学院を出たらすぐに受けられるようにしたいと考えています。一級建築士の試験は年々難しくなっていますが、取得できるように大学として努力してゆきます。

静岡県は地震を避けて通れません。それに対応した技術も現場で見ることできますので、インターンシップとは別に、現場見学会を多く行ないたいと思っています。

高田 耐震偽装事件以来、建築確認申請をクリアするために、いろいろな作業と知識を要求されるようになり、一般の建築物をひとりで設計することはできない時代になりました。



企業組合針谷建築事務所
相談役

高田雅司 さん

今日の話を通じて、
教育機関との情報交換
は大事だと思いました。

市川 高校生のインターンシップでは、先生にも半日、生徒と一緒に体験してほしいとお願ひしています。私が大学を卒業した頃は現場にはありませんでしたが、現

在は人海戦術で使う道具は見かけません。ユニボは、ソフトを入れれば、その通りに土地を造成します。鉄筋は下で組んでレッカーで積んでいます。現場作業は梁とスラブだけで、あとはPC工法で機械化されています。匠が必要ない時代になりました。

防災教育や現場を体験することが建設産業への意識を高める

市川 東日本大震災の頃から「地域の安全・安心を守るには地元の建設産業の方々だ」と行政から言われるようになり、防災訓練も数多く実施しています。そこで、建設産業に対する学生さんの考え方をうかがいたのですが。

坂本 都市基盤工学科に強い希望をもって入学してくる生徒がいます。きっかけは、夏休みに中学3年生と保護者の皆様を対象にした「一日体験入学」、11月に実施する「オープンスクール」での「学科説明会」や「都市基盤を体験しよう」「測量体験や土木材料の強度試験」に興味関心を持つてくれたことにあります。また、本科が力を入れている防災教育について、「誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりを実現し、地元のまちを守るのが都市基盤工学科だ」ということを伝えています。

本科では、静岡建設業協会の協力を得て、2011年の夏から開始した「東日本大震災ボランティア活動」では、岩手県遠野市を拠点にボランティア活動や視察を

2泊3日で実施し、今年で7年目を迎えます。その中で生徒たちは、自分の手でまちづくりをした、建設産業で働きたいと考えるようになります。防災教育は、建設産業に従事する大きなきっかけになります。

西村 本校の生徒達は、環境土木系列の活動の中で自信をつけながら建設産業への意識を高めています。その一つは、農業クラブ活動です。全国の農業高校生が集まり平板測量競技の全国大会を開催し、授業での成果を競い合います。もう一つは、2級土木施工技術検定です。毎年5割程度の合格者数を出しており、意欲的に資格取得をめざす生徒は増えていきます。これらの経験を踏まえ、入学してきた生徒たちに建設産業への意識を持たせて送り出したいと取り組んでいます。



静岡県立静岡農業高等学校
教諭

西村和久 さん

環境土木の生徒の50%
以上が建設産業に就職
することが目標です。

丸田 静岡理工科大学では、住宅建築を志し、防災に興味のある学生が多いです。安全・安心な住宅を建てたいという希望がアンケートでも高かったです。耐震の研究をやりたい学生も多くいます。私たちが東日本大震災後の状況視察の機会も作っていきなさいです。

2年生～3年生ではキャリア教育とし